



神青会に愛着と認識を

会長 川合 玄 紘

一昨年(昭和三十一年)の定時総会に於いて、大任をお引き受けしてより早や二年またたく間に過ぎ去ってしまいました。この間大過なく過してこられたのは、役員、委員を始め会員諸氏の協力、先輩諸兄の心からの御指導、そして神社庁の心暖まるご援助に他ならないと感謝申し上げる次第でございます。

私達は青年会とは何か、何の目的をもって、何の為に組織されているのかの原点に返って、出発する必要があるという事を、活動方針の基本線に考え、第一に使命感を持つ青年神職の積極的参加が会組織を強化させる第一義であるとして、第二に、青少年の教化育成として第三に自己の研修の場として、多に青年会を利用して頂き度いと願いました。

昨年七月には創立三十周年の記念大会を執り行い、大勢の皆様御協力と参加を得、大きな歴史的接点としてとらえるならば、斯道の尖兵たらんとした。あの創立の精神の、初心に返る他ならないものであります。

もうすでに何回となく、私共の間で論議されてきた問題ではありますが、今後、青年会の教化事業の重点施策を考えるにあたり、氏子青年の教化なくして、何があるまいしょう。教化部が都氏青協の窓口となり、車の両輪として、互いに親睦と研修を積む事が、次代の私共の社会をより明るくしてゆく基いであり、彼等と同世代の青年神職の役割はこれからも益々大きくなると信じます。

青年神職としての、自己研修の

場として、教養講座を隔月おきに行い、二年間を通して、代々木八幡神社の平岩満雄先生に講師をお願いし、こよみの見方から始まり、易と算木の扱い方と高度なお話を拝聴し、毎回熱心な発言と論議が交わされましたが、参加者がかぎられていた感がありました。テーマの好き嫌いはともかく、こうした会合には進んで参加して頂き度

いと思ひ、今後の問題として反省している所であります。雅楽の講習会も毎年新入会員の入会を求め毎週木曜日講習会が行われ、神社庁の例大祭を始め、諸祭儀に卒先奉仕して、堂々たる演奏を披露しております。

上部団体である神道青年全国協議会では二年前六月に定時総会が開催され、役員任期の改選によって、東京選出の北川正保会長から同じく東京の前会長中田昌之君が万場一致で選ばれました。東京からも常任理事として、八木、守谷、長岡各君を推挙し、沖縄県波照間島国期修復工事を完成させ又全国とのパイプ役として活躍頂きました。北川前会長は全国青年神職の、今迄の慣習的な中央偏重に固執していた、各ブロック間の

連帯意識の欠如をみごとに解消されました。

中田会長は北川会長の意向を引き継ぎ、全国の意識の盛り上りをとらえ、一部会則改正によって、神青は自分達の協議会であるという認識を深めました。

私共各部会の潤滑油的存在である事業部に於ては、春秋の親睦旅行を始め、納涼の夕べ、ボーリング大会等は好評を博し、新年会の演芸にも今までにない企画で、御来賓の皆様にも楽しんで頂いた様であります。「やくわえ」も年二回の定期会報の他に、三十周年特集号、又不定期便と、広報委員の努力の元、ユニークな広報誌が発刊されました。

最後に、会の原動力は委員一人一人の努力に他なりません。各自が自分達の会にどれほどの愛着と認識を持ちうるかであると思ひます。選ばれた二年間に於て、青春の若さと情熱を、奉仕の精神でつらぬく事は、決して無駄とはならない得がたいものがあると思ひます。さらに、役員改選後の新体制の元に、しっかりと手をつなぎ合

って、斯道のためにつくしてもらいたいものと思ひます。

この二年を回顧する

副会長 八木敏夫

三十周年という大きな節目をばさんで、神青会にとり何時になく活気のあった二年間と思います。

日の丸パレード・ソフトボール大会等に大勢の会員が参加されたことは、会員一人一人の心に何かが残ったものと確信しています。

昨年八月の群馬県相馬ヶ原のボイスカウト東京キャンポリーでは、これも記念事業の一環として神道による礼拝行事を奉仕しました。あいにく天候に恵まれず、準備やだんどりが大変でしたが、神道章を得たBS諸君が献饌を奉仕し、大勢の少年少女が見守り、意義の大きい祭典を奉仕できました。

今、それぞれの記録を振り返ると、神青会の絶ゆまない発展のページが残ったものと思われ、会員の積極的な参加は何時でも何よりも不可決と思います。

私自身一生懸命、二年間を過ぎせていただきましたが、至らない点も多々あったと思います。その点はご容赦願ひ、ご支援をいた

いた諸先輩、会員の方々には改めてお礼申し上げます。

副会長 小泉朋昭

この二年間を顧る時、私は三十周年の記念事業のあれこれがい出されます。大勢のご来賓、先輩諸氏のご来会をいただいた記念大会、予想以上に道行く人の注目を集めた日の丸パレード、大変な暑さだった波照間島の作業など、一つ一つが感激でした。どれも当日は時間が長く感じられました。それだけ意義のある大きな事業だったのだと思ひ出されます。これらの事業が成功裡に終えることができましたのは、何よりも先輩諸氏の御協賛の賜と、常々深く感謝申し上げます。

平常の会活動に於いても会員の出席が多くなってきたことは喜ばしいことと思ひます。記念事業には多数の会員の協力がありましたが、これが単なるお祭り騒ぎで終わらすのではなく、今後の青年会への参加の糸口に、そして飛躍に継なればと願ひます。

議長 植栗照之

神青会は確実に事業の推進を計り、実績を積み重ねてきました。

しかし考えてみればその実績は、かつて神青会に愛着を持ち、情熱を傾けて行動し、会のために只管に支援して下さった諸先輩方の信頼と後援があったからである。

私も七年前勧められるままに神青会に仲間入りしました。十年以上神青会員であられた方々と比べれば、七年間は大きな事を言えるほどの経験ではないかもしれせん。しかし正会員最後の年を迎え今振り返ると、私にとって何にも変えがたい七年間でした。青年神職として最も大切な時期を、同じ仲間と共に有意義に生きることができたと言えるからである。神青会の存在価値がいかに貴重なものであるか、私なりに感じております。

神青会という一本の糸の繋がりが、強いては神社神道の大きな道への絆となっている事を考え、更に強く結び合っていくのが我々神青会員に与えてくれた義務の一つだと思ひます。

総務部長 大村 忠

二年間事無く終えられる事が出来得ました事は、只これ偏に先輩諸兄の温かい御支援を賜わりました事と、会員皆々様の身心共の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。会の運営、会発展の基本は何かと考えます時、答えは会員がいかなる型で会に参画し、一人一人が自分の会である認識を持って頂く事だと思われまします。その点今度の創立三十周年記念事業の場での大切な一面を見る事が出来得ました事は、現役役員として大変嬉しく思われまします。受付に、案内に、接待に、記念品の整理にと、会員が一つの事業を成功させる為に一生懸命にお手伝いと言うよりむしろ自分の仕事と言う気持でやって頂きました。

大会を終えた時、私は真の本会のあり方を見る事が出来た様な気がすると同時に、今後共各部の事業に於いてもこれが会発展の一つ一つの事業であるという気持で取り組まねばならぬ事を、改めて認識させられました。

教養部長 早山 彰

長く感じられた二年間でした。

教養部の事業とし、教養講座・櫻
鍊成・雅楽講習・スクリーン印刷
等の計画を立てました。

教養講座では「曆」をとりあげ
方位・方角等、回を重ねるうちに
易に関係のある言葉が多く使用さ
れ、易をある程度理解しないとわ
からないと言ふことになり、二年
目に「易」をとりあげました。こ
れまた易経の本文に入るとだんだ
ん難しくなり、理解するところま
で行かずに終りを迎えることにな
ってしまい、毎回出席された方に
対して申し分けなく思っておりま
す。と同時に大変な題を選んだこ
とを深く反省しています。しかし
なんとか今日まで役務を過させて
いただいたのも皆様方のおかげと
感謝しております。

教化部長 北川憲史

思えばこの二年間氏子青年の教
化育成という事を、事業計画の第
一に取り上げ担当してまいりまし
た。新聞雑誌等を開くと青少年の
校内暴力が横行している今日、氏

子青少年の問題を更に真剣に考え
る時期にきているのではないでしょ
うか、現在三十一単位会ある氏子
青年会も都氏青協に加盟いたし諸
々活動しておりますが、神社の数
からはまだまだ少ないと思ひます。
氏青を育成している神職さんにも
ち論、すべての神職さんが氏青を
作る気になる事、又若手の神職さ
んが同年代の青少年に神社に関心
を示すようにする事も我々の責務
ではないでしょうか、たとえば、
今日おまつりが盛大になってきて
いる中で神輿をかつぐ若者がたく
さんいます、その若者を神社につ
なぎとめておく方策も第一段階と
して必要ではないでしょうか。
国旗掲揚の問題も日本人である
以上当然であるものが、あたりま
えに行われていない昨今、息の長
い運動として神青会、氏青会が一
諸になり身近な所から啓蒙してい
くべきと思ひます。

渉外部長 守谷幸夫

渉外部の活動は上部組織である
神道青年全国協議会やその他友好
団体に参加することです。言わば
神青会と諸団体とのパイ役で実
際に参加する時は全会員に協力的

ただかなければなりません。幸に
も二年間、都神青会として様々な
活動に参画でき、皆様の理解に感
謝申し上げます。特に波照間島国
旗交換を成し得た事は当会の実績
を残したと思ひます。炎天下の作
業で青い空に国旗が翻えった様は
忘れ得ないことでしょう。

神青協では、年一回中央研修会

を行っております。今期は新潟と松
山で行われ、当会からも各々数名
が参加されました。遠方の地で行
われる事が多いのですが、全国の
神道青年が集まったの討論会です
ので得る事も大きいと思ひます。
特に若い会員にあっては積極的に
参加すれば必ずや何かをつかむこ
とのできる研修会です。

事業部長 押見守康

二年間の事業部を振り返ってみ
ますと、夏のソフトボール大会が
盛大にできました事は誠に喜びに
堪えません。神青会諸先輩、会員
また子弟など百名以上がああ神宮
外苑で汗をかいたこと、意義深い
ことであつたと思ひ出されます。

また懇親旅行、納涼の夕べ、ポー
リング大会等、いずれも参加者の
増加を達成でき、明るくなごやか

な神青会の懇親を深める事が、一
応達成できたと思っております。
今後の課題としては、新会員の
皆さんが気楽に声をかけ合い、一
人でも多くが参加できる神青会
であり事業部である様な企画をお願
いしたいと思ひます。

広報部長 千村義和

定期のやくわえを五部、うち一
部はカラー写真とグラビアに挑戦
しました。それに不定期号が一部
三十周年誌「新なる前進を」も発
行しました。書いてもらうより、
記事を作ろうと心がけ、座談会、
インタビューを取り入れ、部員に
はテープから言葉をとるといふ、
手間のかかることをしてもらい、
紙面に変化をつけました。いくら
かは、読んでいただけの方が増え
たでしょうか。一つ一つを見直す
と、至らない点が多く見え、恥
ずかしくなります。いろいろなこ
とをさせていただきます、役員の方々の
理解と部員の協力に心より感謝
申し上げます。

会計 香取邦彦

会計は数字とのつきあい。合わ
ないと数字がどこまでも追いか

てくる。今期は三十周年事業の会計もあり、二つの帳簿になりました。やっと肩の荷を下ろす事ができ、ホッとしています。

円滑な収入を図る事は勿論ですが、支出も使われていかなければ、各事業が順調に消化されていると言えません。

各部とも活発に行われ、決算面で表われた数字以上の事業がなされたと思います。会員の皆さんの活動が帳簿の上からも伺えます。日の丸パレード、ソフトボール大会、カラー刷りのやくわえ等初めての試みもありました。予算が有効に使われ、会計として感謝するところ です。

庶務 伊藤孝夫

庶務を引き受け、名簿の整理、会議の記録、会務報告のまとめなどを担当し、私にとり学ぶべきことの多かった二年間でした。各事業の推進は神青会の第一義でありますが、神青会を理解し、多数の先輩・友人と知り合い、活動し、語り合い、多くを学んだことは、それ以上の重要な事でありました。これから神青会に参加される方も、私の様な体験をされる

と思います。その広がりや神青会への理解を深め、新たな飛躍へのステップになるのではないかと考えます。皆様の御指導、御協力のお陰と感謝申し上げます。

庶務 山口直和

神青会員に対する連絡通信は、総務・教養・事業など各部より適宜行われている。二年間総務部に属し、通信を出す度に今回の委員会にはどの位集まるだろうかと、思いながら印刷をしている。文面により出席してみようと思われる文章はないかと工夫して、結局味のない堅い文章となってしまった事を反省している。

青年会も三十周年を過ぎ組織は一つの形が固まったようである。神青会発足以前は、都内各所でブロックごとの活動をしていたという。全国組織への大きな広がりも必要、また都内においては各支部各ブロック単位に対して、何か問題を提起するという内への柔軟な考えを持ち、活発な活動を促す形をとって見たらとも思います。

雅楽の体験

池田正雄

公的見解

雅楽は元来「雅正の楽」の意で民間的・大衆的な「俗楽」の対話である。古代中国の春秋戦国時代に儒教の礼楽思想にもとづいて成立し、日本には、允恭天皇の葬儀に新羅の音楽家が多数参列したことが「日本書紀」に記されている。これが最初の記録である。朝鮮系が最初でその後、唐楽・林邑楽・渤海楽も伝来した。

平安朝に遣唐使の廃止により外国音楽の輸入はとだえ、雅楽は真に日本の雅楽として発展することとなった。「平安朝の楽制改革」である。京都楽人・奈良楽人・天王寺楽人の三方楽人は宮廷だけでなく、おのおの各寺社でも演奏していた。江戸時代には紅葉山楽人も成立し、明治になってこれらの楽人は宮内省雅楽局へと統合されるのである。雅楽は本来祭祀の楽であったわけではないが、心を和め柔げる効果に於いて、神祭りにも必要不可欠なものとなったのである。神職たるもの、当然雅楽についての正当なる認識をもって

私的見解

なくてはならない。私はまったくの音痴であります。楽器など弾けるものは一つもなく無芸大食の身でありました。言わば私の劣等感の大きな一つでありました。思えば確か一昨年の六月やくわえに雅楽講習会の案内が出ておりました。それを見た私は、突然その雅楽なるものをやる気になったのであります。四千円のプラスチック製の龍笛を買いこみ、講習会にも合宿にも熱心に参加するようにになりました。今では何十万の龍笛を所有し、一日に一度は吹かないとおさまらないようになっております。更に近々舞の練習もすることになっております。インフォーマルな場では、同じ講習会に出席されている人達と、ナポレオンやジョニ黒をかたむけて勧談し、楽しい仲間を作っております。まさに Lets Join Gagaku Band 1 であります。

昭和五十五年度 会務報告

昭和五十五年

四月六日

総務部会

(大森浅間神社)

四月九日

事業部会

(湯島神社)

四月十一日

都氏青協定例会

(千束八幡神社)

神青協常任理事会 (神社本庁)

四月十二日

役員会

(神社庁)

四月十六日

神青会創立三十周年実行委員会

(神社庁)

四月二十二日

委員会

(神社庁)

四月二十四日

教養部会

(神社庁)

四月二十五日

神青会創立三十周年誌教育問題

(神社庁)

四月二十九日

座談会

(神社庁)

五月六日

総務部会

(神田神社)

五月八日

教化部会

(神社庁)

五月十二日

教化部会

(神社庁)

三十周年誌歴代会長座談会

(池ノ端文化センター)

五月十三日

三十周年誌編集委員会

(諏訪神社)

五月十九日

教養講座

(代々木八幡神社)

五月二十日

三十周年実行委員会 (神社庁)

五月二十五日

創立三十周年国旗布告百十年記念日の丸パレード

念日の丸パレード

五月三十一日

三十周年誌編集委員会

(神社庁)

六月二日

三十周年実行委員会 (神社庁)

六月五日

神青協関東地区総会出席(群馬)

六月十日

一都七県神社庁親善野球大会参加

加

六月十一日

総務部会

(神田神社)

「やくわえ」編集委員会 (神社庁)

六月十二日

本庁指定団体合同連絡会出席

(神社本庁)

六月十三日

都氏青協幹部会

(神社庁)

六月十五日

「やくわえ」二十四号発行

総務部会

(神田神社)

六月十六日

三十周年実行委員会 (神社庁)

三十周年誌編集委員会

(神社庁)

神青協理事会

(神社本庁)

神青協総会

(神社本庁)

六月十七日

神青協総会

(神社本庁)

六月二十三日

沖縄県戦没学徒顕彰慰霊祭参列

(靖国神社)

都氏青協総会

(神社庁)

六月二十四日

神社庁例大祭参列並びに雅楽奉仕

(神社庁)

七月五日

三十周年誌編集委員会

(神社庁)

七月五日・六日

全氏青協定期大会参加(新潟)

七月七日

三十周年誌編集委員会

(諏訪神社)

七月八日

神道婦人会総会出席

(神社庁)

七月九日

三十周年実行委員会 (神社庁)

七月十一日

創立三十周年記念大会

(明治記念館)

七月十二日

教養部会

(神社庁)

七月十四日

三十周年記念ソフトボール大会

(神宮外苑)

納涼の夕べ

(椿山荘)

七月十六日

神青協在京役員会 (神社本庁)

七月十八日・十九日

禊錬成講習会

(御獄山)

七月二十二日

神社庁三十五周年記念事業準備委員会出席

(神社庁)

七月二十四日

都神道人野球大会参加

(神宮外苑)

- 七月二十五日 総務部会 (神社庁)
- 七月三十一日 建国記念奉祝実行委員会出席 (神社本庁)
- 八月三日・四日 ポーイスカウト東京キャンポリー 祭典奉仕 (群馬)
- 八月五日～八日 波照間島国旗取替団派遣 (沖縄)
- 八月十九日・二十日 懇親旅行 (熱海)
- 八月二十三日 三十周年記念大会決算監査会 (板橋熊野神社)
- 八月二十八日 三十周年記念大会決算報告並びに相談役会 (十二社熊野神社)
- 九月三日 一都七県野球優勝祝勝会出席 (東京大神宮)
- 九月十日 山梨県神青会三十周年記念大会 出席 (山梨県)
- 九月二十五日・二十六日 神青協役員研修会出席 (奈良)
- 九月二十九日 三十周年実行委員会解散会 (神社庁)
- 十月一日 「やくわえ」二十五号発行 (神社庁)
- 十月十三日 役員会並びに委員会 (神社庁)
- 十月十六日 都氏青協幹部会 (神社会館)
- 十月十七日 「やくわえ」二十五号発送作業 (神社庁)
- 十月二十日 教養講座 (神社庁)
- 十月二十二日 都氏青協定例会 (本郷氷川神社)
- 十月三十日 神社庁外郭団体正副会長会出席 (東京大神宮)
- 十一月十九日 教養講座 (代々木八幡神社)
- 十一月二十日 神社庁教化委員会出席 (東京大神宮)
- 十一月二十六日 教化部会 (神社庁)
- 十一月二十七日 都氏青協幹部会 (神社会館)
- 十一月二十八日 神社庁各種縁組相談室委員会出席 (神社庁)
- 十二月二日 都氏青協忘年会 (日枝神社)
- 十二月四日・五日 忘年会 (熱海)
- 十二月十日 教育勅語発布九十周年奉祝大会 参加 (明治神宮会館)
- 十二月十二日 教化委員会並びに北方領土返還ポスター作製配布 (神社庁)
- 十二月十八日 雅楽忘年会 (青山)
- 十二月十九日 教養講座 (代々木八幡神社)
- 十二月二十二日 府中刑務所大抜奉仕 (府中刑務所)
- 十二月二十三日 神社庁三十五周年準備委員会出席 (神社庁)
- 十二月二十三日 役員会 (神社会館)
- 昭和五十六年 新年会 (神田神社)
- 一月十三日 新年会 (神田神社)
- 一月二十日 神社庁三十五周年準備委員会出席 (神社庁)
- 一月二十四日 役員会 (神社庁)
- 一月二十六日 神社庁新年互礼会出席 (東京大神宮)
- 二月十一日 建国記念の日奉祝大会参加 (明治神宮会館)
- 二月十二日 都氏青協単位会々長会 (多摩川浅間神社)
- 二月十三日 教化部会 (神社庁)
- 二月十九日 都氏青協定例会 (蒲田八幡神社)
- 二月二十日 教養講座 (神社庁)
- 二月二十五日 日本を守る都民会議出席 (神社庁)
- 二月二十六日 役員会並びに委員会 (神社庁)
- 三月四日 神社庁各種縁組相談室委員会 (神社庁)
- 三月六日～八日 神青協中央研修会並びに神青協臨時総会出席 (松山)

三月九日

都氏青協幹部会 (神社会館)

三月十二日

全氏青協二十周年実行委員会

(日枝神社)

三月十三日

ボーリング大会

(池ノ端文化センター)

三月十六日

教養講座

(神社庁)

三月十九日

総務部会

(大森浅間神社)

三月二十日

役員会並びに役員相談役懇親会

(神社庁)

国旗掲揚推進運動・日の丸ポス

ター作製配布

三月二十四日

神青会監査会

(神社庁)

三月二十五日

建国記念奉祝大会反省会

(明治神宮)

青少年育成国民会議

(都道府県会館)

三月二十九日

都氏青協ボーリング大会

(品川ボーリングセンター)

三月三十一日

「やくわえ」二十六号発行

毎木曜日 雅楽講習会 (神社庁)

